

平成27年度 徳島県立総合大学校運営協議会 議事録

1 日 時 平成28年3月17日(木)

2 場 所 徳島県庁10階 大会議室(徳島市万代町1丁目)

3 出席者

- (1) 委 員 21名中15名出席 (別添「名簿」参照)
- (2) 大学校幹部 飯泉大学校長(知事), 佐野副校長(県教育長)
安井県立総合大学校本部長, 各学部長ほか
- (3) 事 務 局 佐々木事務局長, 吉田副事務局長ほか

4 次 第

- (1) 開 会
- (2) 大学校長挨拶
- (3) 議 事
 - ① 県立総合大学校の概要及び取組状況について
 - ② その他
- (4) 閉 会

5 配付資料

- (1) 資料1 徳島県立総合大学校設置要綱
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程
徳島県立総合大学校運営協議会公開要領
- (2) 資料2 県立総合大学校の概要及び取組状況 ほか

6 議事概要

- (1) 開会
- (2) 徳島県立総合大学校長(飯泉知事)から挨拶
- (3) 議 事
徳島県立総合大学校運営協議会設置規程に基づき玉有会長が議事を進行

○ 会 長（玉有委員）

それでは、本日の議事を進行してまいります。

○ 事務局

議事（１）県立総合大学校の概要及び取組状況について説明

○ 会 長

ここからは、説明に対するご質問やご意見、また県立総合大学校の運営についてのご意見、ご提言などを頂戴できればと思います。

○ A委員

移住と空き家はかなり特化してやらせていただいておりますが、その時に、皆さん都会からおいでになります。年配の方は特に公民館の事業だけでは物足りないのです、是非、この「まなびーあ徳島」を皆さんにご紹介するのがいいなと思っています。今後、これをうんと活用しないといけないなと改めて思いました。

ここの講座のなかで、是非これからやっていただきたいと思うのが、私は移住コーディネーターをやらせていただいておりますが、なかなか各地区でやっていただける方が出てこないのです、この講座の中でも、もしそういったことが組めるのであれば、「地域を知ろう」とか「地域で人を呼び込もう」とか「あなたもコーディネーターになりませんか」みたいな講座をしていただけたら、もっと皆さんに分かりやすく、すっと踏み出してコーディネーターに手を挙げていただけるのではないかと思います。やりたい方が手を挙げやすい形にしないと、県や町でコーディネーターに手を挙げてくださいと言っても皆さん、なかなか手を挙げてくださらないんです。ですからこういったところでワンクッションにおいて、「講座に参加してみて、聞いてみたいな」って思っただけのようなことをしていただけたらなと思っています。

それからもう1つ、空き家なんですけど、県のほうでも空き家の調査とかやってくさっているが、それもなかなかやはり外から見て検査したり調査するばかりなので、それをいかに貸す形のところまでしていくのか。売るのは今、全然だめです、地方の田舎のほうでは、売るのは、誰も買ってくれません。なんとか貸していくような状態に持っていくための勉強を、講座のなかで取り組んでくださったらいんじゃないかと思っています。それと、左官とか大工の講座もやっていただくと皆さん、この頃セルフビルドがすごく好きなので、そういった興味深いところをやっていただけたらなと思っています。

○ 南部校

南部総合県民局でございます。

移住コーディネーターの養成でありますとか、空き家の積極的な賃貸、貸出とかに関しての講座を設けてはどうかとのご提案をいただきました。南部総合県民局におきましては、これまでも圏域市町で構成する『四国の右下』若者創生協議会」を組織し、委員にご協力をいただきながら都市部で行われる移住フェアへの参加でありまし

たり、『四国の右下』移住ナビ」という情報発信のためのホームページ，それから各種研修プログラムの取組等に取り組んできたところです。

その結果，委員にもご尽力いただいた「おためし滞在施設」も完成いたしましたし，サテライトオフィスも南部圏域で15社ということで一定の成果が上がってきたものと考えております。

しかし，そうは言いましても先ほどご提案いただきましたように，より一層の移住者の受入を実現するためには，受け入れる側の地域が積極的に取り組んでいただくことが重要であると考えております。現実には，空き家の情報がなかなか集まってきていないという話も聞くところでございまして，地域の方々に対して，空き家を賃貸物件として提供するための手法もなかなかよく分からないということもあろうかと思えますので，そういった情報提供を，きめ細やかに行って，地元の機運をあげていく，盛り上げていくということが重要であると考えております。

そのため，平成28年度，『四国の右下』移住・定住促進事業」として，移住アドバイザーを配置し，市町の職員の皆さんとか，移住者受入に積極的な住民団体への研修，あるいは，積極的に移住に取り組まれております先進地の方を講師にお招きしてセミナーを開催したりしていきたいと考えておりました，こうした取組を総合大学の講座として一般に開放することで，広く地域の方にもご参加いただけるようにしていきたいと考えております。

○ B委員

平成20年にできたこの大学が8周年を迎えるということで感慨深いものを感じております。この学校にある5つの機能が非常に充実してきていると思うんですけども，さらに5番目にある情報集積・発信機能のところに相談機能をもう少し充実させていただければと感じています。と申しますのは，まなび一徳島のホームページを開けた時に，いろいろ検索します。その時に，相談の窓口がQ&Aという形であります。そこを開けると，まさに相談の事例のようなものがあって，「総合大学とは何ですか」とか「どういった資格が取れますか」とか，そういった用例に対する回答が出るような形になってはいますが，私が希望するのは，いわゆる相談窓口の設置であって，例えば学部別とかに，教育とか家庭教育とか，そういった形のコーナーを開ければ，教育委員会のここであるとか各市町村のここであるとかという窓口がはっきり分かる仕組みがあれば，自分が困ったとき，もしくは相談したい時の窓口がすぐに分かって自分から対応できる。

それと，今は資格の時代です。一般の人たちが，自分が例えば，これを学んで，こういう資格を取りたいという時に，資格の一覧表のようなコーナーがあれば，そこで資格を探して，じゃあ，そのためにはどんなことを勉強して，どんな単位があって，どんな試験があってというような，そういった専門的な資格についての情報を持っているホームページが，どこの県だったかあったような気がします。

それと「科学技術アカデミー」のプレ講座とかをなさって，子どもが将来の職業について，例えば，徳島県のなかで，就業していこうという望みとか希望を持っている子どもたちに，早くから，徳島はこういうところであって，興味があればここに行け

ばあるよという情報を提供する分かりやすいページ，つまりキッズコーナー的なものが，ホームページにあれば，小学校の高学年，低学年でも今はみなパソコンをしますので，そこで開いてみる。じゃあここにこういう情報があった，じゃあそこにお母さんと一緒に行ってみようかなとか，参加してみようかなっていうところで，例えば小学校，中学校の時に，ちょっとひらめいた夢が高校に結びついて，また大学についていう形になろうかなって，そんなきっかけにもなるのが，分かりやすい文面でもって，興味をそそる「キッズコーナー」の設置はあるかなと私は考えています。

しかしながら，8年間の中に講座数が1万を超え，参加者が60万近いと聞くと，徳島県民がいかにか勉強を好きな，そして，学びたい人たちなのかっていうのがよく分かります。

それから，今年の10月に出た「講座一覧」を開いてみると，県立文書館の方で，文書修復のボランティアを経験できるというか，そういう資格，体験でもって，そこで能力を発揮できるよっていう，となれば，こういう総合大学校のなかのボランティアっていうものを格別に強調しておいて，この講座を受けた人たちがボランティアとして地域のなかで活躍できる場所をくまなく網羅しておく，自分はこういう能力があるんだけど，何も今は知らない，でもボランティア講座を見ると，こういうことができるんだなっていう，学んだことが地域で還元できたり，自分の一生のなかで，少し自分の力を試してみる，それが喜びに変わるようなボランティアに関する情報も，また一つ別枠で設けたらいいかなというふうに考えます。

とにかく相談機能を強化させて，双方向性の情報共有と，それを得た上での人生の選択もできるという形で，この総合大学校の5つめの機能のなかに相談機能の重要性，その機能をうまく発揮していただければと思います。

○ 事務局（本部長）

相談機能につきましては，今は，県立総合大学校本部と総合教育センターの2つの本部で電話なり来訪でご相談を受け付けていますが，今，おっしゃられたように，例えば，教育部門でしたら，ここに電話してみたらいいよということは，非常によくある対応ですので，こちらのほうは，来年度から早々にできるように検討していきたいと考えております。

2点目の様々な資格取得につきましては，県で資格試験で扱っているものもたくさんございますので，その情報を集約して，まなび一あのなかの一コーナー的に情報として載せるような検討をしていきたいと考えております。

3点目，子ども向けのページを作ってみたらどうですかというご提言でございますが，まさしく，もう小学生からパソコンに親しんでいる状況でございますので，やる方向で検討していきたいと思っております。

ボランティアにつきましては，県の県民環境部でボランティアセンター的なものをしておりまして，そちらでボランティア情動的なものが集約されてございますので，そことの連携のなかで，まなび一あの中に載せていけないか協議を進めてまいりたいと思っております。

○ 事務局（事務局長）

補足をさせていただきます。科学技術アカデミーに関しましては、来年度から、子ども向けの、小中高校生向けの実践的な体験的な講座を予定しております。本日から先行して「サイエンスナビ」というものを開設しております。来年度のスケジュールが決まっているものにつきましては、イベントスケジュールという形で入力を進めております。チャレンジアップシステムにつきましても充実強化を図っていくという予定にしております。

○ C委員

私も、皆さん方がとても熱心に取り組み、内容がとても充実されていることに感謝いたしております。私も、「とくしま科学技術アカデミー」に興味を惹かれまして、詳しく教えていただきたいと思いましたが、「次世代の人材育成」はよく分かりますし、小中学生を対象になさっていると思いますが、大人も一緒に入れていただいて共有できるような、子どもも大人も一緒に共有できるように、知識を広めさせていただきたいと思っております。

○ 事務局（本部長）

基本的には対象を小中高校生ということで考えておりますが、来年度、開設のオープニングはサイエンスショー的なことを考えてまして、そこには当然、保護者の方もご一緒に来ていただけるという形でやっていきたいと思っております。

○ D委員

平成27年度の調査研究テーマの「人口減少時代における地域課題調査研究」が、平成28年度にはなくなっているということは、これにおける調査研究の結果、どのような対策をとるかという、ある程度の見通しがたっているということだと思うが、じゃあそれによって平成28年度はどのような実施計画をされているのか。

あと、現在の私の職場にしても、職員が40名ほどで、男女の出会いの場というものがないわけです。独身の男女が夜遅くまで勤務されたりしてるんですけども、それでは若干、出会いの場がないので、例えば、芸人とか徳島県出身の落語家とか放送局のアナウンサーとかを使って、男女の出会いが出来るようなイベントを作ってもらえないか。例えば、親子のふれあいの場として、「親子でわんぱく！吉野川を遊ぶ」でされているような感じで、男女の出会いの場ができるようなものを、県主体でやっていただけたらいいかなと思います。

○ 事務局（本部長）

政策研究の分について、実際の事業にどのようにして活かしているのか、というご質問かと思えます。政策研究につきましては、例えば、食品開発などで具体的に事業になっているものもございますし、研究で終わってしまっているようなものもございます。人口減少についてで言いますと、今年度7月に（地方創生の）「総合戦略」を策定するというので、具体事業がいろいろ始まっているということござい

ますので、単に研究して終わりということではなくて、それが実際の施策に活かされるような形で、今後もテーマを選びながらやっていきたいな、タイムリーなテーマでやっていきたいなと考えております。

それと、人口減少で、やっぱり独身男女の出会い場がないんじゃないかというご意見でございます。これにつきましては、出会いの場づくりということで、主に県民環境部の方になります。が、「出会いきらめき事業」という、複数の男の方、女の方という形でパーティー的なものをやる、これはいろんな形で民間に委託して実施をしております。

○ E委員

この「まなびーあ」の一万講座、本当にいろんな講座を入れてくださって大変ありがたいなと思っております。私は、「英語おもてなし講座」を受けました。講師の先生も大変分かりやすく教えてくださる方で、ちょっとでも覚えれたかなと思ってます。なぜ英語をっていいますと、2017年に県西部の方で吉野川を中心にラフティング世界大会がございます。80チームほど来るんですが、当然、皆さん公用語が英語ということで、地域で参加する者としては、「少しでも英語を」と思っていたら、ありがたい講座がありまして、受けさせていただきました。県西部、県南部といろいろと地域の特徴をすごく使っていただいた講座を考えていただいているので大変ありがたいなと思うところなんです。川とか水を使ったウォータースポーツが県西部の魅力でないかなと思っておりますので、大人も子どもも楽しめるような講座をもうちょっと入れていただきたいなと思ってます。西部校についても、「地域づくりの実践講座」とか未定のところがいろいろありますので、是非ともウォータースポーツ関係のものを、ラフティングの女子チームで教えられる者も充分おりますので、ちょっと考えていただきたいなと思いました。

○ 西部校

西部校でございます。英語講座につきましても来年度も開催して参りたいと思いますので、引き続きご参加よろしくお願ひします。ウォータースポーツの方は、平成27年度については、「フィールドを使った講座」ということで4講座のうち1つを「親子でわんぱく！吉野川を遊ぶ」として開催したところでございます。委員からお話のありましたように、今まさに地域が盛り上がっているところでございますので、ラフティング関係についても講座として開設していけるか検討して参ります。

○ 事務局（事務局長）

「科学技術アカデミー」の詳細について、補足の説明をさせていただきたいと思ひます。来年度、科学技術アカデミーにつきましては、まず、小中校生向けに、興味関心を高めることを目的に、ジュニアアカデミーという形で、経験豊富で高度な知識を備えた理科専門員の方々による出前講座、もしくは、「とくしま学博士」によるICT授業、そういった形で出前講座を計画しております。さらには、ロボットプログラミングや3Dプリンターを使ったものづくり体験、そうした体験型講座も予定してお

ります。さらに高度な知識の習得ということで、こちらは中高生向けの講座ですが、大学や企業と連携しながら、大学生の方にもアシスタントティーチャーという形でご協力をいただいて、大学もしくは総合教育センターの高度な分析機械なども利用して、先端的な科学技術の講義とか演習、それから探究的な実験型の講座を予定しているところでございます。

○ F委員

昨年度の総合大学校の奨励賞交付式に参加しましたが、表彰されている方を見ると嬉しそうで、本当にこういうのがあったらいいなというふうに感じました。先ほど他の委員がお話されたような「キッズコーナー」っていうのはいいなって思います。最近、親が仕事に出ている、きっかけをつかめないっていうのがたくさんあると思うので、子ども自身が使えるパソコンで自分で調べることができるというのはすごくいいと思いますし、自分が興味があるものを自分で探せる、キッズコーナーというのがこれから重要になってくるのではないかなと感じました。私は大学を卒業したばかりですが、自分の大学とこういうふうに関連していると聞いて誇らしく感じました。講座はたくさんあるんですけども、子どもの参加の割合人数を知りたいと思いました。人数割合が分かってくれば、それで逆にまた違う目的が出てくるといいますか、子どもが少ないから、子どもの受講するのを多くしようとか、親子のを多くしようというふうに、また目的が出てくると思うので、年齢別というか年代別というか、そういった人数をばっと出してくれたら、今後また違った目的が出てくるのかなと思いました。全体的に見るためには、そういうふうな調査結果が欲しいなって思いました。

○ 事務局（本部長）

講座のなかで年齢別のデータを取って、それによって、足りないところをやっていくというふうにしたらどうかとのお話だったかと思います。現在のところ講座で、例えば30代が何人とかいうデータをとってごさいません。ただ、講座も趣味の講座からスポーツだったり歴史だったり、いろいろな講座がございまして、その講座によって、どちらかと言うと高齢者の方が多いのかなというもの、また科学技術アカデミーみたいに、これは完全に子ども向けにやっていますというものもあります。ご意見は、非常に参考になると思いますので、正確なデータを取るのには難しいと思いますが、そのところの分析はしてみたいなと思います。それと子ども向けの講座を増やすというところで考えていけないといけないのが、土日もしくは夏休みという形になろうかと思しますので、文化の森であったり、その辺で結構、例えば「押し花を作ろう」といったような講座もやっておりますので、現状の講座のバランスを見ながら、少し検討していきたいと考えております。

○ G委員

私は、シルバー大学校の徳島校のOB会副会長を務めさせていただいております。それと「とくしま学博士」ということで、その2つの観点からお話させていただきます。まず、シルバー大学校のOB会ですが、徳島校は35年の歴史がございまして、

非常に多くの事業のメニューをこなしております。まず、講演を年に11回、それから研修旅行4回とか、文化祭とか、そういうところで映画会を2回やりまして、相当なメニューをこなしております。同類の団体のなかでは自負できるメニューでないかと思っております。しかし、これをやっておりますと感じることは、先ほどからでます年齢層の問題、どうしても自己完結型になっているような気がしてしょうがない。いわゆる「老いの楽しみ」というところで自己完結的なところがある。これはもったいないという気持ちがあります。これを他校のOB会もございますので、今のところ連合としましてはグランドゴルフ大会なんかで1回やっておりますけれども、こういうふうな講座なんかにも門戸を開いて、他校にも門戸を開いてというようなことも考えております。一般から募集してもいいぐらいに思っております。それと、このOB会「老いの楽しみ」の自己完結型という形でございますが、県のほうでもボランティアを進めておられるということで、それに参加するという形で若い方にも年寄りの知恵をちょっとお話しして差し上げるのもいいかなというふうに思っております。

それと、「とくしま学博士」の観点からでございますが、関西の徳島県人会の交流大使のスキルアップセミナーでお話させていただいているのですが、それから「とくしま学博士」としましては、シルバー大学校の講義もお手伝いさせていただいております。そういうところでやっているのですが、やはり、もう少し若い年齢層の方、中高生くらいの年齢層の方に、私は「とくしま学博士」を受験した目的、きっかけになりましたのが、公德心の向上にお役に立てないかというところがございます。その目的でやるならば、若い層にするのが一番早いと思いますから、そういう機会を「とくしま学博士」にも頂戴できましたら、有り難いと思っております。

○ 事務局（本部長）

今、OB会で活動されていることを総合大学校の講座に位置づけて、もっと大きな制度の中からというのは充分可能かと思っておりますので、ご相談させていただけたらと考えております。

もう一つの「とくしま学博士」の活動範囲、もっと若い人に話ができないかという話でございますが、放送大学の「知の交流拠点プロジェクト」であるとか「学びの森講演会」であるとか、こういうところでもご活躍いただいているところでもあります。特に若い人だけをターゲットにした形でやっているものはない状況です。どういう形で講座を開設すれば若い人を集められるのか、少し工夫があるのかなというふうに思いますので、その辺を少し検討させていただければと考えています。

○ H委員

放送大学も地域の生涯学習の一翼を担っているという認識もあって、放送大学をもっと、これだけの教育資源を皆さんに知っていただいて、活躍できる場にしないといけないということで、昨年からいろいろと検討し、総合大学校にも協力をいただき、また、徳島大学にも協力いただいて、「知の交流拠点プロジェクト」というものを立ち上げました。これは、普通の講演会の講師として、「とくしま学博士」の方をお願いする、あるいは、放送大学の方でもいろいろな知見をもっておられる方にもお話し

ただ、と同時に、もう少し専門的な視点からお話いただける方とのセットでやる講演会、そして、なおかつ、その会としては若い人もご高齢の方もご参加いただけるわけですが、講演が終わったら、質問ありませんか、でいたい終わってしまうのが一般的ですが、それをもう少し発展できるようにしたいということで「知の交流拠点プロジェクト」として、2つの講演に続いて、そのあと1時間くらい情報交換ができるようにし、そのなかから何かやってやろうじゃないかというようなことが生まれたいかなという目論見でやっています。毎回50名を超える皆さんに参加いただいて、そのなかから、「とくしま学博士」の方が、放送大学の高齢の方にパソコンのスキルアップの協力をしてほしいと、結構新しい芽も出てきています。もっとも交流が進んでいけるようにもっていきなと思いますので、もっとこういうテーマがあるよって、ご提言いただけましたら、それもやっていきたいと思っています。

総合大学だけじゃなくて、放送大学の方ももう少し活躍して、お互いに連携ができないかなということで、今、取り組んでいるところです。

もちろん「学びの森」の講演会ももう（始まって）だいぶんになります。非常に面白いテーマだということで人が集まってきてくれて、あれはあれで、違う視点での位置づけでありますので、「知の交流拠点」は、放送大学に直接足を運んでもらって交流を進める、また、「学びの森」については、あそこ（文化の森）の場所でやるという位置づけでの講演会があるんじゃないかと思っていますので、そちらの方も、テーマを取り上げていただけたらということがありましたら、私も企画を練っていきなと思いますので、これについてもご協力よろしくお願ひします。

○ I 委員

障がい者の就労支援を少しでも進めたいということで、皆さまと一緒に協議したりネットワークを組んで仕事を進めております。現実にやっておりますと、例えばビルメンテナンス、代表的なのがビルの清掃なんかですが、例えば、障がい者の就労支援を進めていくにあたっては、一緒に作業する方々に対しての障がいの特性を理解願わなければ始まらない。それから施設を利用するお客様、堅い言葉では施設の利用者にも障がいの特性などなどについてのご理解がなかなか進まない。そのことを含め施設の設置者、管理者についても、そういう世の中であるという理解の元で、施設を運営していただきたいということで、雇用者だけではうまくいかない、総合的な取組が必要かなということを実際の仕事のなかで感じているところです。障がい者の自立支援という話が大きくなりすぎますが、一般の就労支援のなかで、この総合大学の特性とか機能とか総合性とか研究性とかを活かして、何か取組ができないのかなということを感じておりましたので、ちょっと申し上げた次第です。今という時点は、来年度、（障がい者）差別解消法の施行年度でもあって、障がいのある皆さま方の人権、個人の尊厳を踏まえた社会を形成していかなければならないという極めて重要な時点なので、やれることは現実的には細かいことを一つ一つ課題を共有してつぶしていくということしかできないかも分かりませんが、そういうこと取組を総合大学の研究機能というか、何か取組なりができないかというふう感じております。

○ 健康福祉学部

健康福祉学部でございます。本年4月から「障害者差別解消法」が全面施行いたしますけれども、障がいをお持ちの方もない方も暮らしやすい地域づくりを進めていくなかで一番大きなことは、県民の皆さまに、委員がおっしゃるように、障がい者の方の特性でありますとか、あと法施行なりで、我々行政でありますとか一般事業者の方、広く言えば県民の方々に、どういう点にご配慮いただいたらいいかというあたりを考えて、フォーラムとか講演会を開催したいと、今、計画をいたしておりますので、また、日程などが決まれば、しっかりと県立総合大学校の講座に位置づけまして、一般の方に充分に知っていただける機会を作ってまいりたいと考えております。

○ 産業経済学部

産業経済学部の方からもご説明させていただきます。産業経済学部は、労働雇用という点で関わっております。障がい者の雇用ということに関しましては、法律で雇用率が決まっております。それが現在（法定雇用率が）2.0%以上のところ、（徳島県内の「障がい者実雇用率」は）2.04%ということで、徳島県ではいろんな活動を通じまして、企業の皆さまに障がい者の雇用を進めていただくという取組をしております。講座につきましては、各テクノスクールの方で現在、就労訓練ということで、障がい者の方の能力とか適性とか、あるいは地域の雇用ニーズにあわせまして、大きく4コース、定員55名で実施をさせていただいているところです。ただ、一般の方向けというよりは、障がい者の方に対します講座が主になっております。ビルのクリーニングということでは、アビリンピック競技を実施していただいているかと思っておりますけれども、去年、これにご協力いただきまして、特別支援学校の生徒さん方を対象とした講座ということで実施させていただきまして、大きな反響をいただいたところです。で、一般の方向けということですが、一般の方向けに障がい者の雇用に関する機運の醸成を図るということは、やはり社会環境上整えていくべき必要があると思っております。一般の方向けということで、この総合大学校のなかの講座ということで、何か位置づけさせていただきまして、幅広く進めてまいりたいと思っております。

○ J委員

とても魅力的な講座、徳島のことを学べる講座がたくさんあるんですけれども、多世代交流の講座があるといいなと思ひまして、先ほどもお話が出ました「とくしま学博士」、年配の方たちなのに楽しく学んでいる様子を子どもたちにお伝えしたいなと思って、学童保育施設ですとか放課後子ども教室への出前授業などでしたら、学校の授業とは関係なくお話しできるし、お母様方もこられることも多いので、そういうところで交流できればいいんじゃないかなと思ひました。あと、グローバル人材育成講座の「接客おもてなし英語講座」なんですけれども、牟岐で「英語村」が始まっていると思うんですけれども、高校生だけでなく、大人も一緒に学べたり、観光客が増えるので、皆さんどんどん英語を学ぶために合宿しましょうということで、多世代で学べるものが出来るといいなと思ひました。あと、空き家のリフォーム、今住んでいる家のリフォームとかセルフビルドで家を直していくということは、昔の伝統技術、

左官とか大工さん，あと石積みとか，そういうものを，特に若い世代がとても興味を持っていますので，そういうところでご年配の方が若い人を教えていきながらというような交流できる講座ができればいいなと思いました。

○ 事務局（本部長）

一つは「とくしま学博士」で，例えば学校だと難しいので，学童保育のなかなんかは考えられないか，あと，グローバルの部分で英語村のなかに，参画できるような取組とか，最後は，空き家リフォームについてのご提言もいただきました。今すぐにこれをこうやっていきますとは答えられませんけれども，ご提言の趣旨は非常によく分かりますし，非常に大事なことかなと思いますので，検討させていただきたいなと思います。

○ 会 長

予定の時間がまいりましたので，このあたりで意見交換を終了させていただきたいと思います。県立総合大学校当局におかれましては，委員の皆さまから出されました意見あるいは提言を十分に踏まえていただいて，今後の総合大学校に運営に取り組んでいただきますようお願いを申し上げます。